

## 6次産業化部門から生産部門への再転換！

～ 高品質果実と露地品目拡大による持続可能な農業経営の実現 ～

株式会社 うばふところ

代表取締役 佐藤 和愛（上山市）

### 1 受賞者の概要

佐藤代表は、上山市皆沢地区で三代に渡り築き上げた観光果樹園を平成21年に経営継承し、平成31年に法人化した。

しかし、直後の新型コロナウイルス感染拡大から、「さくらんぼの観光果樹園」や「カフェ」の6次産業化部門の弱みを考慮し縮小のうえ、「人間の生きる営みは食べること」と生産部門に注力すべく、市場関係者等から情報を収集。他産地の生産者から直接指導を受けるなど「小玉すいか」や「せり」等露地品目の栽培に取り組み、短期間で経営の柱にまで定着させ、わずか5年で売上を設立時の倍に拡大した。



小玉すいかの選果作業

### 2 特色ある活動

#### (1) 6次産業化部門から生産部門への再転換

さくらんぼの観光果樹園やカフェも運営していたが、事前予約制で開園期間の定めがあり、作業競合も含め、品質を重視した果実の適期出荷ができないことに疑問を感じ、コロナ禍を機に生産部門に集中できる経営に転換した。

#### (2) 消費者や市場のニーズに応じた露地品目の選定

市場関係者等から情報収集し、国内供給が望まれ上山市で生産に適する農作物を模索し、他産地の生産者からの指導を受けながら小玉スイカやせりなど露地品目の栽培に取り組み、短期間で経営の柱にまで定着させた。

#### (3) 野菜・果樹の複合経営による周年雇用の実現

新たに始めた冬期のせり栽培、また、春期～秋期の果樹部門＋小玉すいか等露地野菜を組み合わせた複合経営により、周年作業を実現。

正社員とパート従業員十余名の安定雇用が可能となり、さらに、法人化で社会保険加入等福利厚生の実現も図られ、目標とする持続可能な農業経営が実現できた。

### 3 今後の発展方向

永年生の果樹と一年生の野菜の組み合わせは、最もリスクに強い経営であり、当社の強みであると考えており、多くの従業員の支えがあってこそ持続可能となることから、感謝の念を持ち続け、「雇用を守る」と誓う。

一方、「確かな品質、おいしさを届けます」、「人間の生きる営みは食べること」を社是とし日々忘れず、お客様が笑顔になれる商品を届け続けていく。



代表取締役 佐藤和愛 氏